



三條北ロータリークラブ週報

手を貸そう

例会会 日
2004. 5. 11
累計 No 849
当 年 No 42

Lend a Hand

国際ロータリー会長 ジョナサンB.マジニアベ 第2560地区ガバナー 原 信一
ホームページ <http://www.rotary2560.net>

例会日/火曜日 12:30~13:30
例会場/三條ロイヤルホテル TEL34-8111 FAX34-8114
事務局/三條市西四日町3-15-34 ヒューマン・ハーバー内
SAA/小林 繁男 TEL35-7160 FAX33-8972
メールアドレス north@sanjo-nrc.org ホームページ <http://www.sanjo-nrc.org>

行事： 地区協議会報告会 次年度斎藤 正会長 次年度小林 満幹事
クラブ奉仕(A) 淵岡 茂委員長

出席： 本日の出席 60名中 41名

先々週の出席率 60名中 51名 85.00% (前年同期86.67%)

先週のメイクアップ： 5月6日 燕RCへ 石川友意さん

9日 分水RC30周年式典

山本 賢さん、中條耕二さん、山上茂夫さん、斎藤 正さん

阿部勝子さん、米山キクエさん

10日 三條南RCへ 梨木建夫さん

会長挨拶： 山本 賢会長



今日は人生の中で大変貴重な最後のステージである「老い」について話させていただきます。今は高齢化社会ですが、死と隣り合わせの「老い」に対して、社会や個人としての捉え方がバラバラで、非常に曖昧になっています。医療の立場から見れば、お年寄りが長生きするのは素晴らしい成果ですが、この理論が全てに通じるわけではありません。

「老いる」ことは命を長い間育んできた結果であり、個人個人が刻んできた歴史です。お年寄りは色々な経験を次の世代に残したいと思っていますが、今の社会は元気な頃の30年、40年は認めますが、物を生産しない年齢だと認めなくなり、70年、80年かけて作り上げてきたものは認めないということになります。しかし、老いを否定したら、社会そのものを否定することになり、だったらみんな50歳くらいで死んでしまえばいいということになります。

戦争を経験し、「人生50年」といわれていた時代を生きてきた今のお年寄りは「なんとなく長生きしてしまった」と話す方が多く、「予期せぬ長生き」と捉えているようです。そして、お年寄りは「迷惑をかけないで死んでいきたい」と考えているようです。

また、「老い」に対して目を背けたいくなることに追い打ちをかけたのは、介護保険が少なからず影響していると思います。お年寄りをケアするという考え方は良いのですが、お年寄りの自己決定を無視している側面があり、基本的な視線が「しなければならない」「介護すべき老人達」という見方なのです。そうした一方的な姿勢が「ケアして延命すればいいんだ」という現状を生んでいます。実際の介護方法も、口を開けることのできないお年寄りの口を上手にこじ開けて、流動食を流し込むだけです。機械的な作業を繰り返してでも、どこまで延命させるかが老人ケアの常識になってしまっている部分があります。これが「老い」に対してマイナスのイメージを作っていると思います。ところが、福祉先進国と言われるスウェーデンやデンマークには重度障害の老人や寝たきり老人はいません。食の面から寝たきりにさせないと言われていますが、実はその前に亡くなっているのです。自力で食べられなくなったら死を迎えるのです。つまり「無理な延命はさせない」とうコンセンサスがあるからです。一方、日本では寝たきりで管を突っ込んででも生きています。自分で食べられない人もたくさんいます。家族やヘルパーさんが食事を流し込んでみたら、むせたとか嚥下したとか大騒ぎになることもあります。元々飲み込めない人達の世話をやっているのにもかかわらず、失敗したら裁判沙汰にすらなってしまう可能性があるのです。

社会の中で老人をどう扱うかという価値観がその社会の姿だと言えます。私達は老いの迎え方について、もう一度考えてみなければならないのではないのでしょうか。平均寿命は長くなってきていますが、命は重いものだからと無理に生かすことは必ずしも望ましい姿だとは言えず、死を受け入れる考え方に変わっていく必要があると思います。

幹事報告： 西山幹事

・三条市ともしび会より 平成16年度三条市ともしび会定例総会のご案内

日時 5月29日(土) 10:00~12:00

会場 ふれあいセンター青空

・東京財団より 「イラクの子供達に毛布を贈る運動」協力のお礼

・フィリピンNGOフォーラム実行委員会より 協力に対するお礼

・原GB、野沢財団委員長より 年次寄付、恒久基金への協力をお願い

ポリオプラス協力に対するお礼

・原GB、ロータリー山の会会長より ロータリー「山の会」のご案内

期日 6月5日(土)~6日(日)

登山 上権現堂山~下権現堂山

集合場所 中小沢温泉 羽川荘

参加費 10,000円

詳細及び参加希望者は事務局までお願いします。㍻切5/14(金)

・大阪国際大会に参加される方に旅行代金請求書を配布致しましたが18日までに直接JTBに振り込みをお願いします

③年間行事に関して何をするかは全てクラブで検討する。奉仕活動の具体的目標を掲げ、行動計画を作成する。

④クラブ奉仕は寄付が最終目的でない。各委員会の年間を通じて、寄付活動を超えた社会奉仕に専念する。会員のロータリー活動の理解を深める例会運営に努める。

⑤クラブ細則の整備を行う。単年度事業に対しての細則作り。

以上

会員の声： 「高遠の桜と絵島囲み屋敷」 羽賀 一夫

4月15日に「天下第一の桜」と称している信州の高遠城址のコヒガンザクラを見に行ってきた。平日だったが満開を目指して詰めかけた観光客で園内は身動き出来ないほどの人出だった。しかしさすがの名所、青空が見えないほど咲き誇ったピンクの花は春の喜びを全身に満たしてくれた。

そしてもう一つ身が震えたのは江戸時代、大奥の美貌の老中絵島(32歳)が歌舞伎役者、生島新五郎との密通の嫌疑をかけられ政争の道具とされ生島新五郎は三宅島に遠島、美貌の絵島はこの高遠の小さな囲み屋敷の出入り口も無い様な8帖ほどの一室に61歳まで幽閉された離れ屋敷見た時だった。トイレと週1回の行水以外は那一室を出る事を許されず28年間日蓮宗に明け暮れた。その28年間どんな思いで日々を過ごしたか、思いを馳せてしばし、その場を動けなかった。

四つのテスト

— 言行はこれに照らしてから —

I 真実かどうか III 好意と友情を深めるか

II みんなに公平か IV みんなのためになるかどうか

5月18日例会：卓話「生徒を短歌に詠む」首藤隆司様

5月25日例会：休会(国際大会と振り替え)

6月1日例会：家庭会合報告会

6月8日例会：卓話 笹原プログラム委員長

6月15日例会：クラブフォーラム(次年度)

6月22日例会：今年度を振り返って

6月29日例会：会長幹事慰労会 18:30~ 於三条ロイヤルホテル